

素晴らしきミツバチの世界

養蜂とは。ミツバチの素晴らしきとは。永年蜂を愛し続けてきた
久世佳弘氏が語る、素晴らしきミツバチの世界!!

春のミツバチ

たくさんのお花が咲き始め、暖かい日が多くなつてくると、ミツバチたちも活発に動き始めます。群の中では働き蜂が増え始め、オス蜂が現れ、新しい女王蜂がつくられます。母バチである、以前の女王蜂は分蜂という形で巣の中の半分くらいを引き連れて新しい場所を探して旅立ちます。

4月は桜やタンポポ、レンゲなど、5月はみかんやりんご、クローバーなど、アカシヤは6月から7月ぐらいに花の時期がやってきます。その時期に咲く匂の花々からミツバチたちは集蜜をおこないます。

春から夏にかけてはこうした集蜜活動をはじめ、巣内の様々な仕事が生かすおこなわれるため、この時期の働き蜂の寿命は約1ヶ月と短命です。ちなみに秋口に生まれた働き蜂は、越冬を含めさほど体力を使わないため3〜5ヶ月と長生きになります。

はたらき者の働き蜂

集蜜時期の働き蜂は本当に良く働きます。花蜜を集めに出かけた場合、1回の飛行で250もの花をめぐり、それを1日に10〜15回繰り返すといわれています。しかもその量は自分の体重の半分、約40ミリグラムにもなります。巣に戻ると待機している貯蔵担当のミツバチに1滴残らず集めてきた花蜜を渡し、またすぐに集蜜へと飛び立ちます。本当にはたらき者ですね。

また、ミツバチたちのからだの構造は、飛行中には、集めた花蜜が溜め込んだ袋状の器官から出てこないようになっているため、つまみ食い(つまみ飲み?)はいつさいできません。

ひたすら女王蜂と群の生態維持のために働き続ける働き蜂。わたしたち人間も見習うべきところがたくさんありそうですね。



株式会社札幌山本養蜂園社長

久世佳弘

久世佳弘 プロフィール

昭和14年 北海道常呂町生まれ。

昭和47年 山本養蜂園札幌営業所勤務

平成6年 山本養蜂園として独立

札幌山本養蜂園

TEL 011-873-3388

住所 札幌市白石区北郷2条7丁目6の13
事業内容 ハチミツ関連商品、養蜂器具卸販売

